

令和4年度 第1回横浜市創造界限形成推進委員会

次 第

日 時：令和4年8月10日（水）
10時00分～12時00分

場 所：18階共用会議室みなと6・7

議題

- 1 審議事項
 - (1) 令和3年度事業評価について
 - (2) 旧第一銀行横浜支店の公募結果について
- 2 その他

資料

- ① 次第
- ② [資料1] 委員名簿
- ③ [資料2] 前回議事録（令和4年3月18日開催分）
- ④ [資料3] 令和3年度事業評価シート
- ⑤ [資料4] 旧第一銀行横浜支店の公募結果について

委員名簿

	氏名	所属団体(役職名)		出欠
委員長	野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	○
副委員長	六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	○
	遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	○
	岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	○
	菅野 幸子	アーツ・プランナー／リサーチャー		○
	治田 友香	関内イノベーションイニシアティブ(株)	代表取締役社長	欠
	日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	○
	簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	○
	山口 真樹子	国際文化交流・コミュニケーション		○

令和3年度第4回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和4年3月18日（金）10時00分～12時00分
開催場所	横浜市役所18階共用会議室みなと5
出席者	野原委員長、六川副委員長、遠藤委員、岡本委員、菅野委員、治田委員、日沼委員、 簗谷委員
欠席者	山口委員
オブザーバー	恵良氏
開催形態	一部非公開
議 題	1 審議事項 (1) 令和4年度事業計画及び事業評価軸について (2) 旧第一銀行横浜支店の公募について 2 その他
決定事項	
事務局	<p>【開会】 ○令和3年度第4回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p> <p>【資料の確認】 ○配付資料の確認が行われた。</p> <p>【定足数の確認】 ○委員9名中8名が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p>【会議の公開・非公開】 ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により原則公開となるが、審議事項(2)については、同条例第7条第2項に基づき非公開とするが、よろしいか。 (了承)</p> <p>審議事項（1）：令和4年度事業計画及び事業評価軸について ＜事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。＞</p>
野原委員長	○各分科会の議長からも説明をお願いします。
日沼委員	○黄金町は、事業をどうやって見える化をしていくか、事業評価の中にどのように載せていくかということが議論になりました。これまでのアートを通したまちづくりのモデル地区という取組のブランディングがかなり進んでいるのではという前提の下、どう評価につなげていくかということが話題になりました。現在の評価シートにはまだ盛り込んではいませんが、この拠点の事業が始まった頃と現在では、何を特徴とし、強みとするかという価値も変わってきて、多様になってきているのではないかと考えているので、地域ブランディングというもの

		<p>をどう評価していくかを今後の分科会で議論していきたいという話をしています。おそらく拠点全体の共通事項でもあるかと思っておりますので、他の委員の皆様からもいろいろなお知恵をいただければと思っています。また、評価をしていくとすれば、事業者自身がブランディング効果を評価するのは難しいと思います。その点について、外部評価でブランディングの効果とか成果、それから、今後どう展開していくかというものを、ある程度コンサルテーションのような形で外部委託することも考えられるのではないかなという意見も出ています。</p> <p>岡本委員 ○急な坂スタジオは、コロナ対策を非常に適切に行いながら、稽古場利用を中止せずに行っていました。今後は、コロナの影響で稼働率が下がってしまっているものを回復するべく、新規利用団体の開拓も行っていくということです。急な坂スタジオの新たな5年間に向け、活動の柱とした創造活動支援と人材育成として、新規サポートアーティストについては、2年ぐらいかけて増やしていくということです。また、若いアーティストは、これまでとはコミュニケーションの手法が異なるところもあり、SNSの活用は不可欠ということで、新たな広報媒体の活用も検討していくとのこと。それから、最重要課題は新ディレクターの育成ですが、これについては4月に発表し、本格的に候補者の検討を開始するという事です。先ほど黄金町の説明にあった事業の見える化というのは、各拠点というよりは、共通の課題として考えるべきという意見に賛同します。</p> <p>簗谷委員 ○BankART1929は、まずスクールとショップについては、コロナ前の状況に基本的には戻したい。それ以外では、18区全体に拠点というか、まず関係をつくって、そこで活動を広げていくことにチャレンジしていきたいというお話が1つ。それから、これまでのスクールとかのアーカイブの公開、可視化についても挑戦をしていきたいということ。あともう一つ大きいのは、みなとみらい21地区全域にまたがるプログラムということで、外に出ていくようなことを頑張りたい。この3つが新しいことと分科会では理解をしています。分科会としては、方向性としては非常にチャレンジングであって、さらに新しいこと、先駆的なことをやっていきたいという姿勢が見られたと理解しております。</p> <p>菅野委員 ○象の鼻テラスは、これまでも多様なプロジェクトを実施してきましたけれども、来年度は、事業にメリハリをつけて、目的を明確化していくやり方を考えていて、事業をそうした方向性に収斂していく予定です。来年度は、新規事業を拡大していくというよりは、これまでの継続事業ということで、新しいテーマ、あるいは新しい試みはほかの拠点に比べると少ないのですけれども、拠点だけではなく、街なかに出ていく展開を計画しています。本来であれば、フェイス・ツー・フェイスであるとかワークショップをどんどんやりながら、という展開</p>
--	--	---

		<p>が望ましいのですが、現在のところは、オンラインという制限がついているところではありますが、このコロナ禍の中にあって、事業全体を中断することなく、きちんと着実に進める、という方針をまずは固めるということです。それから、全体の事業にSDGsというテーマ設定を落とし込むなど、事業の中に、横軸として現在のトレンドを取り入れていくという方向性もしっかり組み込まれています。また、評価軸に関しても、SDGsというテーマ設定に加えて、象の鼻テラスとしては、市民のウェルビーイング、市民の方たちのクオリティ・オブ・ライフ的な観点も、考慮していくことが必要ではないかというご意見もありました。</p> <p>野原委員長 ○THE BAYSは、令和3年度の事業内容を振り返ってみると、コロナ禍において活動量を著しく減らしたりすることなく、維持するための工夫はかなりやっていたということで、それなりに評価できるかなということがございました。活動量としてはよくキープできているんですけども、先ほど事業の見える化という議論がありましたが、ほかの拠点と違い、明確にディレクターみたいな方がいるわけじゃないこともあって、何をしているか市民の方々とかユーザーの方々にちょっと届きにくいのが課題だと思っております。令和4年度も、4つの軸でイベントを進めていきたいということで、中でもビジネススクールが令和3年度の活動の中でちょっとつかんだというか、比較的伸ばしていけそうなプログラムじゃないかというお話があったんですけども、それらを含めて、クリエイティブスポーツの拠点として何を目標としていくかというか、目的としていくかというのがちょっと見えにくい状況があるなど。目標像みたいなものが、官民一緒に少し共有できるといいんじゃないかという課題はあったと思っております。もう一つの議論として、毎回出てくる話でもあります、15年の賃貸借で行っているため、「経営」は評価の対象に入れていないんです。ここも議論の分かれるところであり、賃貸借のため、事業の中身は自身でやってくださいという考え方と、事業に対してアドバイスしていく考え方がある。そのあたりの考え方を整理していく必要があるのかなと思っております。官民連携の事業で、どちらかが評価するというのではなくて、一緒にこれからどうよくするかというのをディスカッションしていくという意味で、評価のあり方ももう少し整理できないのかというご意見も含まれています。活動量としてはそれなりに高い水準を出していただいているので、その辺をうまく伸ばしながら、少し絞ったり見える化をしたりしていきながら、方向性を見出していけるといいのかなと思います。</p> <p>恵良氏 ○THE BAYSのことですが、今年で何年目が終わるのかということと、契約期間15年の中で、目標の中間確認、再設定という議論やプロセスが</p>
--	--	---

事務局	<p>あったのかということをお尋ねしたい。</p> <p>○THE BAYSにつきましては、今年で6年目が終了したところです。昨年、5年目を迎えたときに5年間の振り返りというのをやり、これからの5年間で次のフェーズに入っていくのではないかとすることを昨年の分科会でお話したと理解しております。</p>
治田委員	<p>○THE BAYSを事業者目線ですると、その条件でできることを考えたほうがよくて、横浜市としてどういう目標を持って関内のこのエリアに対してどういう役割を果たしてほしいのかを、お互いで目標設定しないと、議論の方向性が定まらないと感じましたので、そのフェーズが必要な時期に来ているのかなと思いました。ご一緒している後藤委員も、委員から意見を言われるという体制じゃなくて、こういうことをやったんだけど、どうだったかみたいな、もうちょっと視点を変えないと、この関係性だと、ちょっと厳しいですねという話もいただいたかと思うので、そのあたりをどう落としどころをつけるのか、一緒にブラッシュアップができたかなと思いました。</p>
六川副委員長	<p>○BankART1929のカフェ・ショップ事業は、どのくらいのウエートで考えられているのか。例えば収益を考えたり、在庫の負担があったり、結構大変だと思うんです。本来の事業とちょっと違うことで、収益を考えてということだと思うんですけど、その辺どんな感じなんですか。</p>
事務局	<p>○NYKの時のように、カフェがあることで、アーティストやクリエイターが集う、そこでネットワークが生まれる、ということが一番に重視しているかと思います。BankART Homeがなくなり、StationとKAIKOという2拠点になったときに、アーティストが集うとか、コミュニケーションを取るとか、また新型コロナウイルスもあり、みなとみらいの企業の方がふらっと立ち寄れるという形にもなっていないので、ぜひ人が集って、いろいろな意見交換とかネットワークづくりの場にしたいと考えていらっしゃるんだと思います。</p>
菅野委員	<p>○THE BAYSの事業についてですけども、創造界隈拠点の1つというところでの取組として、今後ですが、アートとスポーツというテーマ、あるいはスポーツとクリエイティブなプロジェクトみたいな、そういった発想のものは将来的に考えていこうとされているのでしょうか。アートとスポーツというところに関してはまだ新しい分野なので、なかなか実際的なプロジェクトは立ち上がってはいないと思うのですが、金沢21世紀美術館であるとか、あるいは東工大の伊藤亜紗さんのような、障害のある方たちと共同して、人間の機能を未来の技術と合わせるかと、非常に深い意味での研究も始まっています。何か、そのよう人間の身体機能とアートを組み合わせるようなプロジェクトが生まれると、とてもすばらしいかなと感じたものですから。</p>

事務局	<p>○現時点では、そこまではっていないかなと感じております。ただ、事業計画協定書の中では、スポーツやヘルスケアの分野のイノベーションですとか、クリエイティブ産業の創出を実現していくプラットフォームになるということも書かれておりますので、委員の皆様も新しくなったことでもありますから、原点に立ち返って、もう1回事業計画の見直し等も含めて行っていかれればと思っております。</p>
恵良氏	<p>○目標や成果の見える化の議論は各拠点で共通しているところがあります。その中で、公共空間をどう使うかは全ての拠点活動に共有される気がします。この点は市の関係部局の協力なしにはできないことですので、難しいかもしれないけれども、全体的な視点でご努力をお願いしたいと思っています。また、見える化という意味では、メディアも含めて、情報交換についての大きな考え方を持つべき時期にある、オンライン化は定着してきますので、この点もちょっと頭に置きながら進めていただけたらと思います。</p>
日沼委員	<p>○黄金町と象の鼻テラスに関わらせていただいておりますが、双方とも拠点での活動ではなく、どんどん外に出始めています。当初は拠点の中で完結することがある種の公共空間としての使い方ということで始まり、それがどんどん発展して、それが公共の、もっと社会そのものの中にダイブしていくというか、そういう理念に変わってきています。これは創造界限だけではなく、世界的にまちづくりであったりとか、ソーシャルダイブしていく意味でのアートの役割は非常に期待が高まっているので、拠点としての活動と、その中を運営している人たちがどんどんスキルを持って外に出ていく、今はそういうふうに変ってきていると本当に実感しているんです。拠点に来てもらうだけではなく、自分たちから働きかけていくという意味での展開になってきているのがあると思います。ただ一方で、外に出るのはすごくパワーが必要なことですし、拠点を飛び出しての活動がこれから広がっていくとすると、予算も減るし、スタッフも疲弊する。自分たちの達成度と社会的な評価と、フレームとか予算があるので、そこをどう考えていくのか。これから課題にはなっていくんじゃないかと、今お聞きして思いました。</p>
事務局	<p>○もともとは都心臨海部に創造界限をつくっていくため、まちの中に拠点をつくり、その周辺にネットワークをつくっていくという活動をしていただいたんですけども、この間17年間経って、都心臨海部に限らず、だんだん郊外にそういった創造界限のネットワークとかノウハウを広げていく活動がいつの間にか、ある意味、行政を引っ張る形での動きもございまして、今後、横浜市政の方向性も、都心臨海部だけではなくて、全地域的に、ウェルビーイングというか、住みやすいまち、全地域的なそういう展開が必要になってくると思います。そうい</p>

		<p>う意味で、第2フェーズというか、第3フェーズの中で、創造界限拠点、あるいは創造都市施策が果たすべき役割という大きい観点で、改めて行政の内部でも、あるいは先生方をはじめとした外部の皆さんとも話し合っ、新しい目標を改めて設定していくような動きにつなげていければいいなと思っているところでございます。</p>
六川副委員長		<p>○THE BAYSの令和4年度の主な事業内容ということで、私は前から思っているのは、横浜DeNAベイスターズは横浜スタジアムを中心に横浜ベースボールタウンにしたいんだということをずっと言っています。今回、旧市庁舎街区にもベースボールタウンに向かうような施設ができますし、そういった意味で言うと、THE BAYSの活動が関内のまちづくりに寄与する、そんなような位置づけがあってもいいんじゃないのかなと思うんです。イノベーター、それなりのビジネススクールをやるとかあるんですけども、そこはメインじゃないのかなと、思っていて、だから、15年の賃貸借でセットをしてあるわけで、そういうことをやっていただくと、あのエリア全体が活性化するんですね。自分たちのことばかり考えているのではなく、もっと地域に貢献するような活動ができるんじゃないのかなと、私見ですけども、思っております。</p>
野原委員長		<p>○どういう位置づけで関わりがあるのかというのは、ちゃんと整理したほうがいいなと前々から思っているんで、横浜市側からも、こういうのを一緒にやっていきたいというのを自ら言わないと、そこは多分全然反応がないんじゃないかと思うので、ちょっと整理していただければと思います。</p>
治田委員		<p>○今のお話で、コミュニティとかまちづくりという言葉自体が横浜DeNAベイスターズさんと市側が考えているものは、お話を伺っていて違うなと思ったんです。そこの議論もしないといけないし、片思いだけではだめだなというか、町方はこう思っているとか、こういうことを求めているとかというのがずれているなという感じがしています。例えば、子ども向けのチャリーディングとか、そういうものを行っていることがまちに貢献しているとイコールで思われているのです。だから、それをバツとは言えないけれども、どうしたらそれが地域貢献になるのかみたいところまで議論をしないと、多分難しいんだろうなという感じがしました。</p>
六川副委員長		<p>○関内にはベイスターズ通りという通りがあるわけです。その通りの人たちはその活性化もしたいわけです。まさしくTHE BAYSは隣にあるわけで、だから、いろいろチャンスはあると思うので。</p>
事務局		<p>○まずは、コミュニケーションがまだまだ全然足りていないんだなというのを改めて感じますので、そこもしっかりやっていければと思います。ありがとうございます</p>
野原委員長		<p>○では、質問、意見がなければ、審議事項(1)については了承でよろしい</p>

	事務局	<p>でしょうか。</p> <p>(了承)</p> <p>審議事項（２）：旧第一銀行横浜支店の公募について</p> <p><事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。></p> <p><事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュールなどについて、事務連絡が行われた。></p> <p>○これをもって、令和３年度第４回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間ありがとうございました。</p>
資 料		<p>①次第</p> <p>② [資料１] 委員名簿</p> <p>③ [資料２] 前回議事録（令和３年１１月２４日開催分）</p> <p>④ [資料３] 令和４年度事業計画及び事業評価軸</p> <p>⑤ [資料４] 旧第一銀行横浜支店運営団体公募要項</p>
特記事項		

令和3年度 事業評価シート

資料3

拠点名: 急な坂スタジオ

運営期間: 平成29年度～令和3年度 (5年目/5年間)

【基本方針（使命・理念）】

- ①【横浜発】を、広く国内外に輩出する【創造・創作活動のためのプラットフォーム】
- ②次代を担う若いアーティストたちにとって【使いたいと思う稽古場】
- ③すべての利用者にとって【快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営】
- ④市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる【体験型プログラム】
- ⑤安定した稼働率・利用料収入の維持によるバランスの良い経営

I 運営／経営評価		実施結果	事業評価		
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価	
1 施設における活動実績	1	施設の運営理念に沿った、貸館事業の実施と水準	2020年度は30%程度まで稼働率が落ち込んでいたが、ワクチン接種が広がり、AFFの助成金取得団体により下半期(10から12月)の稼働率が上がった。しかしながら、上半期や1月以降の稼働率は戻っておらず、全体としては45%程度の稼働率になっている。感染症対策を徹底し、急な坂アトリエと子供向けワークショップを実施、小学校3校にアーティストを派遣した。(一部オンライン)	稽古期間中に感染者を出さないように努め、スタッフも俳優・制作者であることから、徹底的に感染症対策を行なった。結果、2020年度以上に気を使い、安心して稽古場を借りてもらえることに尽力する1年だったため、事業の実施が困難であった。	コロナの影響が続く中、稽古期間中の感染者をゼロに抑えるなどの徹底的な対策を講じ、利用者にとって安心できる稽古場づくりに努めたことは評価できる。
	2	貸館事業の利用団体数、スタジオの稼働率			
	3	自主事業、コーディネート事業等の実績と参加者数			
	4	地域・市民に開かれた場所とするためのクリエイティブ・チルドレンに資する活動の実施状況			
2 広報・情報発信	1	<広報・情報発信の基本戦略> <input type="checkbox"/> メディアを通じた活動成果の発信・積極的な情報提供 <input type="checkbox"/> 施設のHPの整備状況、バイリンガル表記等 <input type="checkbox"/> メールニュースの配信、その他新たな双方向メディアの活用 <input type="checkbox"/> ターゲットを絞った効果的な情報発信	公募のタイミングということもあり、これまでの事業や、アーティストのまとめを進めた。 アウトプットのためではなく、年度末のレジデント・サポートアーティストの卒業にあたり、全員と面談を行った。これまでの蓄積と関係性を改めて感じる機会になった。今後、アーティストとイベントを紐づける形で、サイトのアーカイブを整えたい。 若い世代がより簡単に急な坂スタジオにアクセスできるように、3月ごろから試験的にLINEを導入、認証アカウントの取得を行っている。	当初、15周年の事業も検討していたが、次の5年の運営団体に選定されたことにより、慌てずに適切な時期に実施したいと考えている。 2022年の夏をメドに、サイトの更新を実施予定で準備を進めている。 4月に認証アカウントを取得したので、サイトのSSL更新に併せて、本格的に活用開始。購買部のクーポン配布など、活用している。	これまでのレジデントアーティスト、サポートアーティストの実績は十分に素晴らしいものがある。活動のデータをアーカイブとしてまとめ、急な坂スタジオの財産としてアピールし続けていくことが重要である。 コロナ禍で事業数は多くはなかったが、若い世代に対するアプローチも新たな方法を模索するなど積極的に取り組んでおり、評価できる。
	2	<広報活動への反響・効果> <input type="checkbox"/> 新聞等の取材申込状況・掲載状況 <input type="checkbox"/> 国内外での専門誌等の掲載状況 <input type="checkbox"/> 広報ツールの効果・反響			
	3	<広報活動のアーカイブ> <input type="checkbox"/> 事業報告書(アニュアルレポート)の作成 <input type="checkbox"/> 出版物、映像資料、アーカイブなど <input type="checkbox"/> 人的ネットワーク構築の効果			
3 施設の維持管理状況	1	施設の管理状況	懸案事項だった防災設備(非常用アナウンス装置)の工事がようやく実施されたので、全スタッフ対象に、事務所内の設備・地下の監視室にある操作盤の使い方をレクチャーした。	定期的に植栽の手入れも行き、建物内外を綺麗な状態に保つようしている。今後、可能な限りLED化を進めたい。	
	2	施設の修繕・改善状況			
	3	安全対策・危機管理体制			
4 運営体制・労務管理	1	常勤スタッフ数と役割分担(職能)・勤務体制	スタッフ: 館長(1名)、職員(1名)、契約(1名)、アルバイト(10名) 勤務体制: 館長: 運営責任者、事業の企画制作、広報、総務・経理 職員1: 事業アシスタント、工事対応、シフト制(月12日、11時から17時) 契約: シフトスタッフ、事業アシスタント(月10日、11時から17時) アルバイト: シフトスタッフ(1050円～、交通費全額支給)、事業サポート(別途事業人件費支給)	スタッフの体制・報酬に大きな変更はない。実質、フルタイムの正社員はディレクターのみなので、業務量の調整が必要だと感じている。 アルバイトスタッフは、シフトの融通がつきやすく、不特定多数との接触も少ないので、同じスタッフが長年勤めてくれている。事務所にPCR検査キットを常備し、不安な時はいつでも検査できる体制を取っている。	
	2	スキルアップ・モチベーションアップのための取組状況			
5 年間総事業費について(収入・支出)	1	年間総支出に占める管理運営費、人件費の割合(常勤スタッフの報酬と待遇等) 【参考: 最低賃金・統計データ】 ・神奈川県最低賃金: 1,012円/1時間※令和2年10月1日改正 ・民間給与実態調査(令和元年度分調査) 業種別及び年齢階層別の給与額(1年を通じて勤務) 学術研究、専門・技術サービス業、教育、学習支援業 25～29歳: 3,792千円、30～34歳: 4,451千円、35～39歳: 4,952千円、40～44歳: 5,330千円、45～49歳: 5,709千円 【参考: 横浜市の類似施設(令和元年度決算ベース)】 ・長浜ホール(9人): 20,318千円 ・久良岐能舞台(7人): 16,305千円	取組: 定期的にスタッフにヒアリングを実施。また、オーディションのための自主稽古などに無償で稽古場を提供。 人件費: 館長・職員・契約: 8,508,840円 アルバイト: 5,569,876円 割合はまだ低いものの、2020年度よりは利用収入が2倍近く増えた。	今後、稼働率をなるべく元の状態に戻す努力をすると同時に、2022年度下半期のホール料金を値上げする。 ホール利用者は自治体や劇場が主催・共催しており、予算に余裕があるが、スタジオ利用者は助成金を取得していない団体もあり、値上げのタイミングは要検討。 また、購買部の売上が順調なので、今後ラインナップを増やしていく。	
	2	施設の管理運営に係る費用(管理運営費、人件費で事業に係る経費を除いたもの。)に対する年間利用料金収入の割合			
	3	収入の内訳等の状況(市補助金、助成金、協賛金、事業収入等)			

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)		実施結果		事業評価	
評価軸	評価の着眼点					自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 すべての利用者にとって【快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営】	1 すべての利用者にとって快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営を行っているか	稽古場の見回りや整備・清掃を適正に行っているか	稽古場利用者の視点に立った運営をしているか	消毒・清掃作業の徹底を引き続き行なった。複数の団体が利用している際は、共有スペースの消毒作業をこまめに行い、利用者にもマスクの着用や黙食をお願いした。利用前・利用後の体調確認など、定期的に連絡することで、利用団体とのコミュニケーションが増えた。	稽古場でのクラスター発生など起きることなく、年間を通して運営できて、安心した。ただ、感染拡大時はスタッフが濃厚接触者になるケースが多く、シフト調整が困難であった。		アーティストが稽古場として使っていて、疑問や心配を感じたときにフォローしてくれる存在として機能したと評価できる。
2 【横浜発】を、広く国内外に輩出する【創造・創作活動のためのプラットフォーム】	1 「横浜発」を意識した、発信力のある創造的活動を展開しているか	施設の運営理念に沿った、多様な自主事業の実施 オリジナルなものの創作、「横浜発」にこだわった創作 企画から制作までアーティストと連携しながら作品を創作 DanceDanceDance@YOKOHAMAの関連企画としてのダンスワークショップの開催 都市空間・立地環境を意識した活動・創作 開館15周年に向けた取組のまとめ 施設内外で行った各種事業の発信	DDD関連企画として、タシロリエによる影絵を用いたダンスワークショップを開催予定であったが、感染拡大や子供同士での感染が増えていたため、大事をとって無期限延期とした。時期を見て、改めて開催予定。 レジデント・サポートアーティストの卒業と同時に、若手アーティストのリサーチ、2022年度の企画への声かけを開始した。	利用者への安全を第一に考えた結果、事業実施はほとんど出来なかった。しかしながら、公募の準備や、次の世代のために何が出来るのか、を丁寧に考える機会になった。	利用者の安全を第一に考えた結果、事業実施はほとんど出来なかった。しかしながら、公募の準備や、次の世代のために何が出来るのか、を丁寧に考える機会になった。		DanceDanceDance@YOKOHAMAの関連企画としてのダンスワークショップを実施できなかったのは残念だが、コロナ禍で学校との連携が困難な中、様々な制約を受けながらも市内小学校3校へアーティスト派遣が行えたことは評価できる。
3 次代を担う若いアーティストたちにとって、【使いたいと思う稽古場】	1 新たな可能性を持つ人材を発掘、育成しているか	急な坂による戯曲賞やアワードの授与 舞台芸術にかかわる人材の育成支援(インサイドアウト) 稽古場等におけるパワハラ等の勉強会の実施 和室を活用した滞在アーティストによる、多様なジャンルの子供向けワークショップ アーティスト・イン・レジデンスの実施 アーティストフィールドワークの支援	山下恵実(ひとごと。/青年団)を迎えて、急な坂アトリエを実施。最終日には子供向けのワークショップを開催した。(詳細別紙) ハラスメント相談員の資格試験の準備を職員対象に進めている。 試験的に、コンクール出場の若手団体(エリア51)にホールをスタジオ料金で貸し出した。	山下さんのワークショップでは、参加した子供たちはもちろん、見学に来ていた保護者や小さな兄弟たちが本当に嬉しそうで、楽しんでもらうことが出来た。	山下さんのワークショップでは、参加した子供たちはもちろん、見学に来ていた保護者や小さな兄弟たちが本当に嬉しそうで、楽しんでもらうことが出来た。		充実したクリエーションになったようで、かながわ短編演劇アワードで観客賞を受賞した。
4 市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる【体験型プログラム】	1 子供たちの創造性を育む創造的プログラムを展開しているか	(再掲)DanceDanceDance@YOKOHAMAの関連企画としてのダンスワークショップの開催 (再掲)和室を活用した、滞在アーティストによる多様なジャンルの子供向けワークショップ 参加する子供たちが主体的に活動できる企画・運営	DDD関連企画として実施できなかったのは残念だったが、まずは利用者の安全を第一の運営を徹底したかった。 和室のアトリエ利用は、山下さん本人にとって、とても集中して作業でき、いい機会になったようだ。	急な坂アトリエを2022年度に実施予定の団体(白屋夢)にヒアリングを行なった。イベントありきではなく、時間をかけて一緒に事業に取り組むことを共有できた。	急な坂アトリエを2022年度に実施予定の団体(白屋夢)にヒアリングを行なった。イベントありきではなく、時間をかけて一緒に事業に取り組むことを共有できた。		アーティスト派遣は、感染状況によって延期になったり、最終日のみオンライン実施になったりとイレギュラーな対応が続いたが、アーティストの協力により、全校実施出来た。
	2 地域・市民に開かれた取組を行っているか	市内の既存の文化施設、他の創造界隈拠点との連携等 国内外の活動拠点との交流・連携 市民を対象としたプログラムの実施 関内・関外周辺地域を意識した事業展開	市内小学校3校にアーティストを派遣した。急な坂ならではの組み合わせに挑戦し、生徒からの反響もとても良かった。(詳細別紙)				

【総評】(令和3年度)
 ・コロナ禍にあって、オンライン等も活用しつつ、小学校へのアーティスト派遣を無事に行えたことは評価できる。
 ・レジデンスアーティスト、サポートアーティストが令和3年度で一旦全員卒業となったが、メンターとして寄り添いながら信頼関係を築いてきた点が評価できる。

【市の取り組むべき事項】
 ・WEBマガジンにディレクターが取り上げられるなど、市民への認知向上のための広報の取組を進めたことは評価でき、引き続き取り組むことを期待する。
 ・ハラスメント問題に関して、運営団体だけの取組とするのではなく、市と連携して進めることを期待する。

【総評】(令和2年度)
 ・新型コロナウイルス感染症対策を迫られる中での運営であったが、「ききみみ」などの新たな取組により稽古場としての活動以上の付加価値をつけている。
 ・アーティストの面でもきちんと内容を創り出している。首都圏を中心とした演劇界の中でつながっていると感じる。

【総評】(令和元年度)
 ・限られた予算と人員の中で多くの事業を丁寧に実施されている。若手の支援をはじめ、稽古場ならではの企画や、コロナで人を集められない中で状況に応じた企画ができていた点が評価できる。
 ・子供向けプログラムについて、子供に関心があるアーティストと協力しながら企画を組み立てるなど、柔軟な発想で考えられるといい。急な坂らしい企画を期待する。

【総評】(平成30年度)
 ・新規事業を含め、ニーズを丁寧にすくいあげた企画運営・サポートができており、稽古場としては十分な運営ができています。今後は、運営体制を十分に確保し、体験型プログラム等、市民の創造性を育むプログラムを増やせると良い。
 ・相談室plusや新規サポートアーティストの応募数も増えており、着実に事業を運営している。
 ・運営の継続性を意識し、現在の人件費が適正か、業務内容や業界水準を考慮し見直すべき。

令和3年度 事業評価シート

拠点名: 初黄・日ノ出町文化芸術拠点

運営期間: 平成31年度～令和3年度 (3年目/3年間)

【基本方針(使命・理念)】

- ◆安心・安全のまちづくりを最優先に位置づけ、以下の理念を基に文化芸術によるまちづくりを行う
- ①文化芸術の力で新しい価値観を産み出し、地区の活性化
- ②NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営
- ③産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開
- ④大学、研究機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信する

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 全体事業収支	1 全体事業収支	[経常収益計] 130,504,238円 [経常費用計] 125,655,359円 [(税引後)当期正味財産増減額] 4,848,879円	実施した事業が増え収入、支出とも増額となったが、収益は昨年度より若干減少している。収益事業の拡大が今後の課題点と思う。	・老朽化などにより改修しなければならない施設が多くあり順番に対応しているようだが、海外から来日するアーティストも増えているなかで、施設全体を有効に使い続けるような施設のマネジメントを期待したい。
2 事業収入	2 <input type="checkbox"/> 黄金町バザール(チケット収入等) <input type="checkbox"/> 黄金町芸術学校(受講料) <input type="checkbox"/> 高架下スタジオ利用料 <input type="checkbox"/> その他物件家賃収入 <input type="checkbox"/> ギャラリー等販売手数料 <input type="checkbox"/> 視察受け入れ <input type="checkbox"/> その他	[黄金町バザールチケット販売収益] 1,578,200円 [黄金町芸術学校受講料収益] 189,540円 [高架下スタジオ利用料(短期利用)] 1251,434円 [その他物件家賃収益] 21,730,897円 [ギャラリー等作品販売収益] 4,835,840円 [視察料金] 20,600円	家賃収益はやや回復傾向を示し、また作品販売などの実績は前年度を大きく上回った。ギャラリー、ショップの運営は好転している。	
3 施設の維持管理状況	1 管理施設数 2 施設の利用状況 3 施設の改修状況 4 安全対策	[管理施設数] 109戸 [施設の利用状況] 貸出施設/展示施設/自営店舗/事務所利用/入居者共用施設/倉庫利用/未整備/利用不可 [施設の改修状況] シェアスタジオへの改修1件/スタジオ兼レジデンススペースへの改修1件/展示スペースの改修2件	前年度に引き続き、比較的大型の施設の改修を行った。一方で施設の一部に老朽化、劣化が激しい物件が見られる。改修工が必要な物件が今後は増大すると思われる。	

※自己評価のチェックについて: 取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性/政策達成評価		事業計画(要旨)	評価の着眼点	実施結果	事業評価	
評価軸					自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 文化芸術の力で新しい価値観を生み出す	1	AIR事業 長期・短期レジデンス/共用施設の運用/成果展/中間面談/アーティストミーティング/作品展示・販売協力/広報協力	<目標>入居者数75組、施設整備数8件 ・プログラムの効果、アーティスト支援の内容 [取組の効果]募集スキーム、管理体制の構築/募集時期見直し/事業者枠の設定/リサーチャー向けプログラムの整備/未活用物件の整備/他AIRとの差別化/不動産会社との連携/アーティスト支援	[長期レジデンスアーティスト数] 41組45名 [短期レジデンスアーティスト数] 7組9名 [施設整備数] 4軒 [アーティスト支援] アーティスト連絡会議/アーティストのための英会話講座/工房整備	AIR事業は公募を再開した。海外からの申し込みと採用が多く、次年度以降にこの効果が現れて来ると思う。国際交流事業は全てリモートになったが、お互いの関係を重視するという事で日常的に連絡を取り合うことを確認した。黄金町バザールは通常の開催形態に戻った。屋外を歩くシチュエーションが多い展示会ということで、観客の皆さんは安心して来場したと思われる。また、例年より、平日の来場者が多かった。バザールの直後、周辺地域施設との連携事業「横浜あいの街を歩く」を開催した。準備期間が短かったが、今後の近隣施設との関係づくりの手がかりを作ったと言える。並木アートプラスは地域から継続の希望があり、規模を縮小して実施した。	5
	2	国際交流事業 レジデンス交換プログラム/交換展示/東アジア文化都市交流/海外アートシーン紹介	<目標>予定団体5団体 [取組の効果]新たなアートスペースとの交流	[交流団体/プロジェクト] LUXERLAKES A4 Art Museum(中国・成都)/Bamboo Curtain Studio(台湾・台北)/Space Ppong(韓国・光州)		
	3	黄金町バザール2021 公募・推薦選考による国内外のアーティストと黄金町の長期レジデンスアーティストによる作品展示	<目標>来場者数15,000人 ・アーティスト、作品、展示会構成 [取組の効果]周辺施設との連携/リモート参加の検討	[会期]2021年10月1日～10月31日(計31日間) [来場者数] 9,053人 [参加アーティスト数] 41組 [関連イベント] レクチャーツアー(横浜市民ギャラリーあざみ野)、リサーチプログラム(ロード・ナ・デイト)、アーティストトーク、インターンプログラム		
	4	展示イベント企画	<目標>企画展3企画、イベント12企画 ・日常的にアートに触れる機会の創出 [取組の効果]長期アーティストの個展、ライブ企画	[主催企画] ・「Stranger Than Painting」(長期レジデンスアーティスト、岡田光生個展) ・DIGITAL//REALITY (Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021関連事業) ・横浜あいの街を歩く(文化庁ウィズコロナに対応した文化資源の高付加価値化促進事業)		
	5	made in Koganecho コミッションワーク/パブリックアート企画制作	<目標>プロモーション強化 [取組の効果]市郊外部での企画/海外販路/ウィンドウ展示	[実施内容] ・黄金町アートブックバザール、gallery made in Koganechoでのグッズ・作品販売 ・ウィンドウギャラリープロジェクト ・東戸塚店舗での作品委託販売 ・並木アートプラス(AIR ACT実行委員会)		
	6	黄金町芸術学校 実技講座/専門講座/ワークショップ	<目標>講座数10講座、受講者数100人 ・講座数、受講者数の拡充	[講座開催回数] 通常講座:5講座(計73回) 子ども向け講座:4講座 [延べ参加人数] 通常講座:249名 子ども向け講座:52名 [講座例] 陶芸/編み物/ドローイング/美術講義		

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)		評価の着眼点		実施結果		事業評価	
評価軸								自己評価(成果・課題)	
								【チェック】	
								委員会評価	
2 地域、企業、大学、警察、行政、ボランティア等と連携した事業運営	1	のきさきアートフェア	<目標>来場者数2,000人、開催回数1~3回 ・地域団体、周辺施設との連携、PRの強化	[日程]2022年3月25日~27日、4月1日~3日(のべ6日間) [来場者数] 1033人				5	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会事務局業務については、現行の体制に見合う形でNPOとして担うべき業務を整理することが望ましい。
	2	初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営 定例会運営/まちのルールづくり/防犯パトロール/Kogane-X Lab活動支援	<目標>会議出席者20名/回 ・町内会との連携強化 [取組の効果]「まちづくりニュース」の内容見直し	[定例会出席者数] 延べ263名(9回実施) [防犯パトロール出席者数] 延べ210名(9回実施) [まちのルールづくり] アンケート実施 [まちづくりニュース発行] 年間3回 10,400部					
	3	地域活動支援 大岡川桜まつり、大岡川水上劇場、運河パレード等の地域イベント支援/黄金町BASE支援/東小放課後キッズとの連携	<目標>活動周知、参加者数向上 ・地域イベントの支援や連携、PRの強化 [取組の効果]	[実施内容] ・避難訓練+防災炊き出し大作戦 2021年11月21日 ・打ち水イベント(緊急事態宣言により中止)					
	4	京浜急行との連携/エリアマネジメント検討	<目標>管理施設を中心としたマスタープラン作成	[実施内容] ・マスタープラン検討部会 ・マスタープラン検討会議					
	5	日ノ出・黄金スタジオ運用	<目標>プロモーション拠点としての運用 [取組の効果]カフェ事業者との連携/日常的なオープン/シェアカフェの運用	[日ノ出スタジオ] ・黄金町アートブックバザール、gallery made in Koganechoの運営 ・カフェ事業者とのイベント連携(横浜あの街を歩く) [黄金スタジオ] ・シェアキッチン運営					
	6	ボランティア等との連携 バザールサポーター	<目標>実働人数増加 [取組の効果]サポーター向けコンテンツの拡充/イベント連携/情報発信	[バザールサポーター登録者数] 349名(2022年3月末時点) [実施内容] ・アーティスト、事務局、イベントのサポート、広報発信協力、自主活動					
3 産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開	1	施設貸出(1day~) レンタルスペース	<目標>PR強化、回転率増 [取組の効果]時間貸プラットフォームの活用、運用スキームの構築	[短期貸出件数] 36件			5	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアマネジメントに関する業務は、レジデンスの運営、アートイベントの実施、地元が行う安全・安心な環境づくりの支援等、核になる事業を絞り、整理していくべき。 	
	2	エリアマネジメント検討 関係者との継続的な協議/マスタープランの提案	<目標>関係者との協議継続 [取組の効果]中長期マスタープランの作成、施設運用	[実施内容] ・マスタープラン検討部会 ・マスタープラン検討会議					
	3	初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営	<目標>会議出席者20名/回	[役員会出席者数] 延べ135名(8回実施)					
	4	初黄日商店会事務局運営	<目標>まちゼミ実施、はつこひ市場開催 [取組の効果]地域ブランド商品の開発	[実施内容] ・はつこひ市場 2021年11月21日(計1回)					
4 地域再生のモデル地区として全国に発信	1	地域内外へ向けた情報発信、メールマガジン、SNSでの情報発信	<目標>HPアクセス数、メールマガジン登録者数、SNSフォロワー数増加	[HPアクセス数] 51,589ユーザー [メールマガジン登録者数] 1,762件 [SNSフォロワー数] Facebook 5,340件/Twitter 4,640件/Instagram 1,650件/YouTube 110件			5	<ul style="list-style-type: none"> ・発信する情報の内容に工夫があるといい。例えばSNSでイベントの告知だけでなく、アーティストとのエピソード等、プロセスを意識したものも発信することで、後から取組を振り返る際の記録になり、アーカイブする際にも生かすことができる。 	
	2	視察受け入れ(有料)	<目標>視察受入数増加 ・販売資料の増加	[視察・ヒアリング対応実績] 14件(うち有料:2件)					
	3	支援者獲得	<目標>支援者獲得 ・広報ツールの整理	[実施内容] ・バザールフレンズ(小口の事業寄付)実施					

【総評】・体制に見合った事業の選択と集中が必要。初黄・日ノ出町エリアで行う必然性や差別化等の視点で精査すべき。
・アーティストの受賞歴など、後年の活躍について可視化し、黄金町のAIRIにおいてアーティストを育成してきた実績をよりアピールすべきである。AIRアーティストが黄金町を経験したから成長できたことをデータ化してほしい。

【市の取り組むべき事項】
・マスタープランを作成する場合は、黄金町の事業の一つと考えるのではなく、他の創造界隈拠点も含めもう少し大きな枠組みで市も加わって考えていくべき。
・AIRの実績などについても、個別の拠点でなく創造界隈全体として把握・評価していくべき。

【総評】(令和2年度)
・新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化により、様々な影響を受けの中で、リモートでの実施やオンライン販売など、様々な工夫・努力により事業を進めてきたことは評価したい。
・一定の成果が上がる中で、次の10年間をどのようにやっていくのか、方向性を地域の施策として定めていく必要がある。
その際に、これまで絡めてこなかったテーマ(ex.食文化など)を新たな基軸として打ち出すことも検討してほしい。

【総評】(令和元年度)
・これまでの着実な事業の実施により生み出した成果は高く評価できる。地元企業等との連携については、さらなる発展が期待できる。今後は、周辺地域との連携も意識し、パートナーを広げていけると良い。
・アーティストインレジデンス事業は、日常の表現を支えるものと、バザールなどイベント系のもとのバランスよく実施できており、黄金町の特色を出せている。これまで培った海外とのネットワークを途切れさせないよう、オンライン等への展開など、柔軟な対応が望まれる。
・黄金町の取組は世界的にもモデルケースになり得るので、しっかりと取組をアーカイブして発信すること、次の取組に生かしていくことを期待する。

【総評】(平成30年度)
・これまで10年以上、着実に取組を継続してきたことで、収益面以外の成果(文化の耕し)が出ている。
・レジデンスアーティストの海外での展示機会が増えているほか、卒業時には周辺物件を紹介する等、積極的な一貫した支援ができています。実際に周辺に残るアーティストが増加傾向にあることは高く評価できる。
・多岐に渡る業務をこなしているが、マンパワーに見合った事業計画か、成果が出ているか、収支のバランスがとれているか、事業ごとに適宜振り返り、改善・整理していけると良い。

【総評】(平成29年度)
・Tinysの開設は、NPOのこれまでの取組実績によるところが大きい。これによりスタッフの意識や組織力が向上していることが伺える。今後は本実績についての効果的なPR等により、民間投資をさらに誘導していけると良い。
・屋外、特に川沿いの作品展示やアートクルーズは、市民の関心を集める良い事業であり評価できる。
・アーティストの出口(育成・ステップアップ)について戦略を持ってプロモーション活動を行うことが望まれる。

令和3年度 事業評価シート

拠点名:文化芸術創造発信拠点 (BankART1929)

運営期間:平成30年度～令和6年度 (4年目/7年間)

【基本方針(使命・理念)】

- (1) 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと
- (2) 他都市及び国際的なネットワークの構築
- (3) さらなるBankARTの経済的な基盤の確立
- (4) 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 経済的な基盤の確立	1 全体事業収支	別紙「令和3年度収支報告書」参照 収入約1億1200万円	<p>昨年に引き続き、コロナでカフェ、ショップの収入は激減したが、国の助成金などから大きな額の収入を得ることができた。</p> <p>アーティストに対するコロナ対策の助成金(文化庁等)の影響もあり、展示・パフォーマンス共に会場使用のオファーが多かった。2022年のドクメンタに出品する栗林隆のプロジェクトキックオフ展(アートタンク)など、レベルの高いチームと組みつつ、会場収入を得ることができた。</p>	<p>・令和3年度までは、コロナの影響が一番の打撃で、外部的要素でありある程度仕方がない。</p> <p>・Stationは、スタートした時と比べて人の気配がするようになり、雰囲気はよくなっていると感じる。認知度が上がった成果と思われる。</p> <p>・環境の変化に応じてどういった事業展開を行っているか等、マーケティング的な考え方を踏まえているかどうかという視点で、分科会としての評価の仕方を考えていく必要がある。</p>
2 経済的な基盤の確立	1 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率 2 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等)の内訳と比率	横浜市補助金59% 他助成金17% 自己収入24%		
3 施設の整備・維持管理状況	1 施設の整備状況	<p>■施設の整備、管理、修繕・管理状況</p> <p>・BankART KAIKO 水道の設置によりカフェ営業許可申請実施</p> <p>・R16 studio 6月までに完全撤去。電気、水道復旧。作品や資材などの移動</p> <p>・BankART Station 展示施設内で雨漏りが数箇所発生(5月)→横浜高速鉄道手配で3月に工事を実行</p> <p>■安全対策 消防訓練など、横浜高速鉄道(Station)、三井不動産(KAIKO)と連携をとり定期的に実施。</p>	<p>4～6月は、テナポラリーとR16の撤収と荷物整理に時間がかかったが、夏以降は、馬車道駅と新高島駅のふたつの安定した空間で運営することができた。KAIKOも水道を設置することができたので、カフェ営業もできるようになった。</p>	
	2 施設の管理状況			
	3 施設の修繕・改善状況			
	4 安全対策			
	5 その他			
	<ul style="list-style-type: none"> ・BankART Station (隣接する道路区域を含む) ・BankART KAIO (R2年10月～) ・その他 			
4 広報・発信	1	<p>■情報発信 郵送物発送、メールニュースに加え、ブログやSNS関係(Facebook、twitter、instagram)も連動してそれぞれ効果的なタイミングを分けて発信している。受付での芳名獲得により、住所録のデータベースもさらに蓄積されてきている。 住所録件数 約8万件 郵送物発送 7500通×回、4000通×1回(年間) メール配信 約2万件×48回/年</p> <p>■出版事業 美術関係は展覧会と連動してカタログ発行、建築・まちづくり関係は「都市デザイン横浜展」に併せてカタログ他1種を発行。 ■次年度以降を見据えた周辺企業・地元との関係構築、および 国内外での事業PR、講演、レクチャー、視察受け入れ スクール「みなとみらい物語」を継続開催し、周辺企業との関係構築を図った 次年度個展開催の北島敬三、アヅチ・シュウゾウ・ガリバーのスクールを開催した</p>	<p>都市デザイン横浜では、新聞社やテレビでの取り上げは少なかったが、来場者のSNSや口コミも多く、結果、コロナ時期にも関わらず、3月時点で5千人。4月までの延長で1万人の来場を達成した。同じく都市デザインのカatalogも初版4000部だったが、延長会期中売切れが見込まれたので重版2000部を行った。アマゾンだけでなく全国の書店からも発注がきている。</p>	

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)		実施結果		事業評価	
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価(成果・課題)		委員会評価	
				【チェック】			
1 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと	1	アーティスト・クリエイターの育成支援や横浜への定住・定着を促すことを主な目的とした短期滞在型アーティスト・イン・レジデンス事業	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 ・AIRの開催(オープンスタジオの開催) ・台北との交流AIRの実施 <input type="checkbox"/> 出版事業	<input checked="" type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 ・AIR春、夏2回開催 ・台北交換AIRはコロナの影響で渡航制限があり実施できなかったが過去に台北に滞在した3組の報告展とシンポジウムを開催 <input checked="" type="checkbox"/> 出版:台北交換AIR展やUnder35のカatalogを発行	<input checked="" type="checkbox"/> スタジオ→春に加えて夏期と2回開催した。コロナの影響によりいくつかの展覧会がキャンセルとなる中での制作スタジオへの変換であったが、オープンスタジオも含めアリエとしての活用うまく機能した。発表する場所、制作する場所は近くにあった方がいい。市場がそうであるように、水揚げと仕込みと販売が一括の方がはるかに懐が深く、売る人も買う人も元気のいい豊かな時空を共有できる。BankARTとしてはこの仕組みをもっと日常的に都心部で整備していく方向でトライしていきたいと考えている <input checked="" type="checkbox"/> U35→動員は少なめであったが、充実した内容が続いた。作品が売れる、次の展覧会に誘われる、プレスで紹介される等、具体的なレスポンスが7人の作家共にあった。 <input checked="" type="checkbox"/> 食と現代美術→コロナ禍で残念ながら飲食店との協働は断念したが、関係性はつくれたので、新年度以降で再度トライしたい。 <input checked="" type="checkbox"/> その他主催事業→韓国AIR報告展、台北AIR報告展、中国の写真家「徐勇」展など、人々がコロナで渡航ができない状況であるからこそ、国際的な視野や旅の豊かさを感じさせるような展示を行うことできた。 <input checked="" type="checkbox"/> 北仲エリア→昨年に続き横浜アーティストからハロウィンやイルミネーションのコーディネートのおファーがあり、実現した。 <input checked="" type="checkbox"/> スクール→1年半ぶりの開講でどの講座も定員を超えたが大きなトラブルなく開催できた。継続的に開催している周辺企業迎えての「みなとみらい物語」も少しずつではあるが展開できた <input checked="" type="checkbox"/> コーディネート事業→企業、行政、大学、国際的組織、インディペンデントな組織など、各方面からの質の高いオファーに応えることができた。一部は共催として開催した。 <input checked="" type="checkbox"/> 出版事業→特に都市デザイン関係2種の出版では、横浜という都市の豊かさを広く伝えることができた。	9	<input checked="" type="checkbox"/> U35において、「1つ作品が売れ、1つの仕事に繋がりが、1回プレスに取り上げられる」というように、自ら目標を設定し、取り組んでいることは評価できる。 ・作品の販売については、市の方針等も踏まえこれまで積極的に取り組んでいなかったが、新たな展開として検討していくことも必要。マーケットに行く前の段階にあるアーティストの作品についての考え方や、販売を事業成果として評価できるかどうかについて、議論を進めるべき。 ・アーティストにとって居心地がいい場所と一般市民が集まってくる場所は相容れないところもあるが、BankARTが双方をターゲットとして、近隣企業の研究開発系の人とアーティストをつないだり、若いアーティストを広い世界とつなぐ役割ができるといい。
	2	横浜で活動するアーティスト・クリエイターや企業・事業者・市民等と連携した街の活性化に寄与する事業	<input type="checkbox"/> 主催事業 ・野老朝雄氏、鷺見和紀郎氏等の企画展の開催 ・食と現代美術展 ・UNDER35の開催 <input type="checkbox"/> スクール事業 ・みなとみらい地区の企業との連携 ・アーカイブ公開 <input type="checkbox"/> カフェ・ショップ事業 <input type="checkbox"/> 出版事業	<input checked="" type="checkbox"/> 主催事業 ・食と現代美術→当初予定していた近隣飲食店とのコラボはコロナのため断念し、ステーションとカイクの2つの展示会場で開催 ・Under35→計7組の若手作家をカイクにて紹介 ・野老朝雄展(中止)、鷺見和紀郎展(翌年度に延期)→共にコロナの影響で開催断念 <input checked="" type="checkbox"/> スクール コロナの影響により今年度前半の開催は断念したが、秋より徐々に再開。マンスリー講座も3本開講。 ・みなとみらい地区の企業との連携→周辺企業をゲストに迎えた「みなとみらい物語」を連続開催 ・アーカイブ公開に向け作業は進行させたが公開までは至らず <input checked="" type="checkbox"/> カフェ、ショップ コロナの影響により、時短営業が続いた。 <input checked="" type="checkbox"/> 出版 「都市デザイン横浜」「まちづくり主義のススめ～横浜の実践から学んだこと～」など13種発行。詳細は別資料定量データ参照			
	3	本事業の成果発信及び最先端の文化芸術に市民が触れる機会の提供等を目的とした様々なプログラム	<input type="checkbox"/> 主催事業 ・野老朝雄氏、鷺見和紀郎氏等の企画展の開催 ・UNDER35の開催 <input type="checkbox"/> コーディネート事業 ・YPAM、コルビジェ、卒展など <input type="checkbox"/> スクール事業 ・みなとみらい地区の企業との連携 ・アーカイブ公開	<input checked="" type="checkbox"/> 主催事業 ・Under35、徐勇展、食と現代美術、韓国AIR報告展、台北AIR報告展 共催としてポストバブル建築展、アンスティチュフランス映像展 <input checked="" type="checkbox"/> コーディネート事業 ・都市デザイン横浜(横浜市都市デザイン室)、カモ井加工株式会社(マスキングテープの会社主催のマステを使った作品の展覧会)、アートタンク(ドクメンタ出品作家栗林隆のプロジェクトキックオフ展)、クリエイティブクラスター「グレートリセットスモールリポート」、YPAM(舞台芸術国際見本市)、多摩美・和光などの大学卒業展など多数開催 <input checked="" type="checkbox"/> スクール事業 ・みなとみらい地区の企業との連携ほか			
2 他都市及び国際的なネットワークの構築	1	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 台北市との芸術家相互派遣プログラム <input type="checkbox"/> 海外との相互派遣など	<input checked="" type="checkbox"/> 台北市との交流事業AIR <input checked="" type="checkbox"/> 国内外での事業PR、講演、レクチャー <input checked="" type="checkbox"/> 国内外からの視察受け入れ <input checked="" type="checkbox"/> 大地の芸術祭(BankART妻有)	<input checked="" type="checkbox"/> 台北市との交換AIRはコロナの影響で今年度は見送り <input checked="" type="checkbox"/> 広島市立大学集中講義など、対面/オンライン含めいくつかのレクチャーをおこなった <input checked="" type="checkbox"/> 視察受け入れ 20件、87名 コロナの影響で主に国内から <input checked="" type="checkbox"/> 大地の芸術祭は2022年度へ開催延期 <input checked="" type="checkbox"/> その他、続・朝鮮通信使などコロナ禍での国際的な事業は停滞状態とならざるをえない状況が続くが、具体的な事業の再開時に十分活動できるよう、施設の整備等今できることを積極的に進めた	<input checked="" type="checkbox"/> コロナのため遠方への出張は少なかったが、オンラインでのミーティングなどの対応も実施した。通常から行ってきた台北や続・朝鮮通信使などの継続的な海外交流事業はコロナの影響で相変わらず実施できずにいるが、時期が来たら再開できるよう、連絡を取り合っている。	4	事業という形でなくても、海外ネットワークを絶やさずに連携を保っており、評価できる。
3 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり	1	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> 出版事業 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> AIRの開催(オープンスタジオの開催) <input checked="" type="checkbox"/> UNDER35の開催 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺へのアーティスト誘致	<input checked="" type="checkbox"/> AIRの開催(オープンスタジオの開催)2回 <input checked="" type="checkbox"/> Under35の開催 3期7名 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺へのアーティスト誘致 R16以降の展開など	<input checked="" type="checkbox"/> R16に居た渡辺篤氏が、南区弘明寺に新たなスタジオを構える際、別のアーティストに声がけするなどして結果として発展的に展開した。コロナで一般的に発表機会が失われる中、アーティストにとっての日常である制作の場所へとシフトさせることで空間の活用や交流を促すことができた。	8	<input checked="" type="checkbox"/> R16の成果として、公共空間の活用が学べただけでなく、都心部から離れて次世代が育ってきている。

【総評】・前年度に引き続きコロナの影響を受ける中、事業が実施できなくても継続性を保つような「耐える力」を発揮することで、集積したアーティストを引き続き支えることができている。
 ・道路の使い方や企業とのつながりなど、まちを開いていくためのチャレンジをプロセスを踏んで行ってきたことも評価できる。
 ・BankART全体の運営を体制変更に伴い再構築していく中で、基本方針とのすり合わせが必要。

【市の取り組むべき事項】・当該事業や横浜文化賞等の市の施策で育成、評価したアーティストやクリエイターが、横浜で活動や発表ができるような枠組みを検討すべき
 ・ギャラリービジネスの是非も含め、公益性、公共性、ビジネスの整理をして市として指針をすべき。

【総評】(令和2年度)
 ・コロナ禍や施設再編など大きな変化があった中、一部実施できなかった事業もあるが、助成金の積極的な獲得や鉄道事業者との連携による駅舎の活用、海外からのリモートによる作品制作など、多様な取組やチャレンジにより多くの事業を実現できたことは評価できる。
 ・みなとみらいの企業等との交流の足掛かりはできているので、キング軸形成のサポートや増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことも期待したい。
 ・コロナ禍でデジタルシフトが促進されたことに鑑み、オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげていくことを期待する。
 ・2拠点体制を意識した施設再編は、今後に向けての布石となった。今回のコロナ対応のマニュアル化や人材育成を進め、運営体制の安定化が図れるとよい。

【総評】(令和元年度)
 ・分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。
 ・stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。
 ・客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。
 ・リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。

【総評】(平成30年度)
 ・新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。
 ・Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。
 ・工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。

令和3年度 事業評価シート

拠点名: THE BAYS(旧関東財務局横浜財務事務所)

運営期間: 平成28年度～令和12年度 (6年目/15年間)

【基本方針(使命・理念)】

- ① 関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる
- ② 旧関東財務局の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る

I 運営評価		実施結果	事業評価	
			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 ＜施設の運営状況＞	1 文化財の価値を損なわず、建物の歴史を生かした活用を行っているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の価値を損なわないようにするため、社内で新たな取り組みが検討される際には、施設管理担当が必ず施設面についても確認を行うようにしている。 ・コミュニティスペースの利用状況については、事業報告書のとおり。ビジネススクールを始め、トークイベントや観光イベントなどでもコミュニティスペースを利用している。 ・3階会議スペースの利用状況については、事業報告書のとおり。 ・事業報告書のとおり、関内外地区における創造産業の集積のさらなる推進、日本大通り地区の賑わい創出につながる運営をしている。 	施設運営については、利用者の方のニーズの変化に応じて、レイアウト変更を実施し、ブースの会員数を増やしたり、地下一階の運営形態を変更することで価値を最大化することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報効果がどの程度あったのか、もっと強くアピールしたほうがよい。 ・オウンドメディアを使って発信したことで、どういった人にメッセージが届いているか、行政の発信と差別化できる要素なので、そのあたりをわかるようにすると、市との役割分担ができるのではないかと。 ・HPは、イベントを多くの人に興味を持ってもらえるような、ナビゲーションがあるといい。記事が並んでいるだけでなく、関内軸なのかスポーツ軸なのか、見出した価値と連動するといいい。
	2 コミュニティスペースがクリエイター・企業等の交流の場として十分利用されているか？			
	3 3階会議スペースがラボ会員等に十分利用されているか？			
	4 事業計画協定書における事業計画を基本に、事業目的に適った運営がなされているか？			
2 ＜広報活動＞	1 施設及び各事業の効果的な広報活動・情報発信が行われているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンなトークイベント、ワークショップ等の発信コンテンツを定期的に開催している。 ・自社HP、拠点HPを中心とするオウンドメディア・SNSを活用した効果的な広報活動、情報発信に取り組んでいる。 ・プレスリリース等を通じて外部メディアへのイベント告知など戦略的に進めることができている。 ・イベント実施の際はメディアへの働きかけを行い記事にいただいている。 ・1FのPRコーナーでは、他の創造界隈拠点で行われるイベント等のちらしを配架し、創造都市横浜のPRを行っている。 	引き続き、球団公式SNSやプレスリリース・各イベントの趣旨に合わせたメディアへのアプローチに尽力し、ほぼ全てのイベントで集客に成功している。また、メディアへの事前のアプローチ等でTHE BAYSの取り組みが記事として、取り扱われるようになり、THE BAYSのさらなる認知度向上につながっている。	
	2 創造都市横浜のPRにつながる工夫がなされているか？			
3 ＜施設の維持管理＞	1 施設を法令遵守して維持管理しているか？ (特に文化財として)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理では、日常清掃と定期清掃をニッソーサービス株式会社(令和4年4月 ヒトヒト株式会社に組織変更)へ、設備管理や各種点検は株式会社相鉄企業へ委託し、維持管理に努めている。 ・施設の変更や修繕については、毎月、横浜市文化観光局様へ維持管理報告書を提出しているほか、利用方法の変更を検討の際にも、文化観光局様へ事前に相談し、都度、判断を仰ぐようにしている。 ・安全対策、安全管理は、ニッソーサービス株式会社と相鉄企業株式会社とも都度連携し、法令で定められた点検、検査などを実施している 	建物が文化財であることを十二分に踏まえ、法令に遵守して維持管理をしている。また、安全対策、安全管理についても怠ってはならず、その結果、これまで無事故で施設の維持管理をできていると自負している。	
	2 施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか？			
	3 利用方法の変更などについて事前に報告・相談をしているか？			
	4 安全対策、安全管理をしっかりとした体制で行っているか？			

※自己評価のチェックについて: 取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)		実施結果		事業評価	
評価軸		評価の着眼点		実施結果		自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 関内外地区における創造産業の集積をさらに推進する	1	スポーツ×クリエイティブというコンセプトを体現する活動、事業等を総合的に実践できたか？	下記4つの軸でイベントを実施し、網羅的に、スポーツ×クリエイティブを体現する。 軸①Next Ballpark Meeting 軸②子供向けアカデミー/ビジネススクール 軸③観光プロジェクト 軸④スポーツ×〇〇イベント	事業計画通り、4つの軸に沿ってイベントを実施することができた。特にNext Ballpark Meetingでは参加者から出たアイデアを実際に具現化し、スポーツ×クリエイティブを目に見える形で体現することができた。	子ども向けアカデミーやビジネススクールでは外部の講師を招きながら、単発ではないパッケージ化した内容を提供することができ、結果的に収益にもつながった。	8	<p>＜成果＞ 事業計画の通り、4つの軸に沿ってイベントを実施することができた。特にビジネススクールの実施はスポーツビジネスに興味がある優秀な方々が集まり継続的にディスカッション等を重ねることができたことは大きな成果である。また、CSLの大きな収入源にもつながった。</p> <p>＜課題＞ コロナ禍で様々な制限があるなかでどのようにして直接的な交流を醸成していくか検討する必要がある。</p>
	2	新たなイノベーション・創造産業の創出・集積に向けた活動が進んでいるか？(創造産業創出にかかる人材等の集積や出口の創出に向けた活動が進んでいるか？)	上記の軸③では、観光プロジェクトで、THE BAYSの利用者から[横浜を楽しむ観光アイデア]を集積し、アイデアの具現化・商品化を目指す。	観光ツアーのスタンダードな枠組みは確立することができ、新しいコンテンツを追加したり、野球イベントに合わせたスペシャルツアーを実施するまで発展させることができた。	横浜に拠点を置くドゥイのこども造形教室より小野亜斗子氏と轟岳氏&株式会社ビクニックルームと連携し子ども向けアカデミーの実施をすることができた。		
	3	創造界隈のクリエイター、企業、大学、市民、行政との交流・連携が促進されているか？	軸②の子供向けアカデミーでは、関内外で活躍するクリエイターやCSLの会員とコラボしたイベントを実施し、継続的な交流・連携を促す。 CSLのブース数の増加や個人スペースの充実を図ることでCSL会員を増やし、連携先の土台を増やす。	CSLのブース数の増加や個人スペースの充実を図ることでCSL会員を増やし、連携先の土台を増やす。	会員形態の変更やレイアウト変更等で会員のニーズに合わせて流動的に変更していくことで会員数の増加につながった。		
2 本施設の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る	1	日本大通り地区の賑わい創出に貢献しているか？	コロナ禍においてニーズが高まっているオープンテラス・中庭のさらなる有効活用する。 フロアごとの連携をし、THE BAYS内での循環再来館を促進することで、賑わい創出に貢献する。	日本大通り活性化委員会への参加や、オープンカフェへの実施は引き続き行った。またコロナの影響でランチの時間帯は、多くのお客様が、日本大通りや中庭を使用した。またイベントに関してもワークショップ系のイベントに関しては、積極的に中庭活用をした。各フロア合同のキャンペーンなどを実施。再来館促進と売上向上に繋がった。	観光プロジェクトでは野球イベントと連携したツアーを実施することができた。また、野球イベントに合わせた限定飲食の販売などで野球観戦にきたお客様への来館を促すことができた。	7	<p>＜成果＞ 観光プロジェクトをはじめ、THE BAYSの外に出ていく活動を引き続き実施することができた。またオープンテラスの利用促進や中庭を活用したイベントの実施などコロナ禍の制限があるなかで最大限に活用することができた。</p> <p>＜課題＞ 野球に関連しないまちに出ていくイベント(exガンダムさんとのコラボツアーなど)では集客に苦戦したためどのようにまちに繰り出し、集客をしていくか考えていく必要がある。</p>
	2	日本大通り地区の事業に参加・協力しているか？	日本大通り活性化委員会/その他日本大通り沿いのイベントに実施する。	コロナの影響を受け、日本大通りを利用した野球イベント自体が中止となったため連携企画の実施はできなかった。			
	3	スポーツ×クリエイティブという視点から、創造界隈の形成や関内外の活性化にも活動を広げているか？	上記観光プロジェクトをTHE BAYS.日本大通りという枠を超えて関内外や横浜の街に活動を広げる施策として利用する。	観光プロジェクトでは、ガンダムさんとコラボしたツアー内容を検討した。実際には集客ができず、中止となってしまったが、スポーツを軸としながら、関内外へ展開するにあたっての課題も見えてきた。			

【総評】
 ・総じて様々な事業に精力的に取り組んでいただいている。報告の仕方として、事業に参加した方の変化や街への波及効果などを盛り込んで、THE BAYSの取組により、どのようなインパクトがあったのかを示してほしい。
 ・開館から5年経過したので、これまでの成果や当初想定されなかったことなどを踏まえ、THE BAYSの取組が関内外の住民あるいは横浜市民に対してどのような価値が提供できているのかといった観点から市とともに評価軸を検討してほしい。

【市の取り組むべき事項】
 ・THE BAYSの取組の効果について、独自に調査を行うか、すでにある調査結果を活用するなどして、検証を行ってほしい。
 ・広報、市内部との各部局との連携にも取り組んでほしい。

【総評】(令和2年度)
 コロナ禍において、事業自体が中止・延期となる施設も多い中で、オンラインや運営団体の工夫を通して、活動を継続し、かつ発展させてゆくことができた点はよかったと思われる。今後、こうした活動の認知・発信を強化するためにも、公民連携を通じて各方面からアプローチするとともに、横浜スポーツタウン構想を始めとして、地域や地域のクリエイター、他の拠点等との連携を通じて活動を発展させていきたい。

【総評】(令和元年度)
 ・4年目を迎えて、活動としては非常に活発化しているが、創造産業に関する活動のアウトプットが不足している。外部との連携も踏まえた創造産業の集積の促進と発展に向けて頑張してほしい。
 ・内部の活動を外に見える化していくためにも、中庭の活用など、官民連携してほしい。

【総評】(平成30年度)
 ・創造産業の集積に対する取組みを行っており、成果が会員数の増加などの数字に表れている。
 ・新規の取組みへの投資もしながら健全経営をしている。
 ・ACYや市との協働も行っており、昨年度の課題を受け止め、それを丁寧に実施している。

【総評】(平成29年度)
 ・入口としての取組は、数多く実施しており評価できる。
 ・今後さらに、活用事業者と市の協力(及び他の拠点との連携)により、アウトプットの発信・販売戦略等を協力して練り、各取組を創造産業の創出・集積という出口につなげていく必要がある。

令和3年度 事業評価シート

拠点名:象の鼻テラス

運営期間:令和2年度～令和6年度(2年目/5年間)

【基本方針(使命・理念)】

- ①創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する
- ②象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 無料休憩スペース/ 観光インフォメーション運 営	1 無料休憩スペースを年中無休で運営	●昨年度に引き続き、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令に伴い、イベント中止や延期を余儀なくされたが、年中無休の施設運営を達成することができた。関係者からも感染の報告を受けることもあったが、即座に関係イベントを中止したり、従業員から発生した際は即日専門業者による館内消毒を済ませ、他スタッフへPCR検査を実施し陰性者で変わらず運営にあたった。	●従業員から感染者が出たことは残念だが、即座に対応できたことで拡大を防げたと考えている。またイベント参加者、来場者からクラスターが発生していないことは成果である。 ●新規のクイズラリー型のプログラムも実施すると多くの参加者が得られており、市民ボランティアガイドの活動は自律的で、コロナ禍でも工夫し、来場者に寄り添ったプログラム考案ができています。 ●展示型の催事を増やすことで、日常的な文化体験につなげている。 ●来場者数を見ていると徐々に賑わいが戻りつつあることがみてとれるが、コロナ禍前に立ち返るのではなく、ネクスト・ノーマルに合った施設運営のかたちを引き続き模索したい。	●このコロナ禍の中で年中無休で運営し、それを継続してできたことに関しては高く評価できる。 ●働いている方の中にもアーティストとして活動している方がいるとのことだが、アーティストもこうした施設で働くことで直接お客様のニーズを学ぶことができる。お客様との関係性も生まれる。今後も働いている人のニーズを酌みつつ続けてほしい。
	2 観光インフォメーションの実施	●観光インフォメーションにおいては、市民ガイドスタッフを中心に無理ない運営体制で臨んだ。昨年度ガイドスタッフ有志による手作りの象の鼻テラス歴史パネルを引き続き掲出。さらに、今年度の新規企画として、対面の案内がなくてもパークの歴史が学べるクイズラリー型のプログラムを考案。		
	3 日常的に質の高いアート作品・映像作品を館内に展示	●常設展示に加え、プログラムに合わせ壁面展示を多く実施した。		
	4 利用者の利便性向上への取組	●利便性向上を目的とした開館時間延長(金・土曜は19時まで)や時間外活用の催事についても、コロナ対策を徹底しながら積極的に実施した。		
	5 誰でも入りやすい空間づくり	●来場者数は、昨年比では上回っているものの(104%(9月)～188%(7月))、コロナ前の2019年度に比べると、50%台から70%台となっている。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大状況が緩和された時期と象の鼻テラスの大型イベント開催が重なった10月は、2019年度比でも126%となり、社会状況によっては賑わいが復活することもわかった。		
	6 営業時間の工夫(休祝前日の時間延長)			
2 運営体制	1 スタッフの配置状況(役割・人数)、勤務体制	●コロナ禍が原因で人員削減することなく、昨年同様、専従者を含む7人体制で推進した(1月からは退職者があり、6人体制)。労働負荷改善と業務内容の充実に向け、適時外部スタッフを配置して確実な運営に努めた。会議は極力オンラインを活用、密な環境では行わないなど、業務体制でもコロナ対策を講じた。	●昨年度に引き続き、コロナ禍が原因で人員削減することなく運営できたことは成果である。市民ボランティアガイドを含む市民サポーターにも無理ない範囲で事業に参加いただき関係構築が継続できている。 ●象の鼻テラス専従スタッフだけでなく、施設運営のノウハウを持った会社全体として、緊急時の対策を講じることができていることは強みである。 ●各文化芸術事業の担当スタッフが専門性を身につけたり経験値を上げることは事業推進においても多彩に活躍する効果につながると考え、推奨されている。スタッフの中には表現者として活動するものもあり、引き続き働きやすい環境づくりに努めていく。	
	2 緊急時の体制	●新型コロナウイルス感染症にかかる事象、最近ではデモも頻発するなど対策を要する場面が増えたが、適時、横浜市担当者や会社全体との情報共有を密にし、適切な対策を講じている。		
	3 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組	●業務内外関わらない活動の中で、各スタッフ自身が専門性を磨く時間を当てられるようサポート体制を整えている。このことは、今後の文化芸術事業の推進においても多彩に活躍できるため効果につながると考えており、引き続き働きやすい環境づくりに努めていく。		
3 施設の維持管理	1 施設の維持管理状況	●施設の維持管理について、定期的に設備点検を実施。修繕箇所について市担当者や情報共有しながら順次対応している。自然災害や経年劣化による箇所での未完のものは、引き続き安全上の優先度が高いものから修繕にあたるよう努めていく。	●新型コロナウイルス対策になる備品を積極的に取り入れることを優先し、その他のメンテナンスも随時進めた。来場者の安心感につながるような環境づくりに務めたい。 ●象の鼻テラス、象の鼻カフェ全体で訓練を実施し、非常時に備えている。 ●修繕については、13年経過しているため、未完箇所だけでなく全体で不具合がないか、日常的な点検に努める。	
	2 施設の小規模修繕・改善状況	●新型コロナウイルス感染症拡大防止策にかかる備品・設備を各種整えている。入り口に、無人検温機を新たに導入。各席にアクリル遮蔽板も設置した。引き続き、アルコールやマスクは随時確保している。		
	3 安全対策、安全管理体制	●各催事で出入りする関係者や、一定時間を拘束するタイプの催しや催事の種類によって参加者を対象に、来場時の検温実施と消毒を呼びかけ、記録に残すことを徹底した。		
		●防火管理責任者、衛生管理責任者の役目は施設長が担い、非常時対応について随時スタッフの指導に当たった。災害対策として消防訓練は年2回実施。		

※自己評価のチェックについて：取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		事業評価			
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果		
1 創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する	文化芸術事業				
	1	質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業 □新規性・独自性の高い活動並びに象の鼻地区の特性を生かした国際性の高い事業の展開 □多様なアーティスト、クリエイターへの活動の場の提供 □多様な文化芸術活動主体との連携	・PORT JOURNEYS: ディレクターズミーティングを横浜で開催、「We Trees!」フェスティバルを実施 ・ゾウノハナ・パレエ・プロジェクト: 若手ダンサーの育成と定期的な成果発表、地元のパレエ団旗揚げに向けた推進体制づくり	●weTrees Tsurumiは無事開催。2つの事前プログラムと、フェスティバル開催で、地域住民を巻き込み盛り上げた。●ディレクターズ・ミーティングは、weTreesの報告会として実施。●PORT JOURNEYS showcaseでは、フランス人アーティスト、パティ・ダルルによるワークショップとその成果物の展示を実施。 ●通年のワークショップは昨年度に引き続き、幅広い世代が参加しやすいよう身体を探求する内容を中心に実施。●「Walk Installation ARUKU vol.2」を1月に開催。韓国在住アーティストのジョン・イによる写真インスタレーションの中で上演した。●本公演のキックオフとして「ワークインプログレス」を6月に実施。	
	2	まちづくり、賑わいづくりに資する事業 □象の鼻パークとの一体的活用 □都市文化観光への寄与 □都心臨海部の立地環境、歴史性を意識した企画・活動	・フューチャースケープ プロジェクト: フェスティバル開催 ・ZOU-SUN MARCHE: 企画性・国際性を高めたマルシェを開催 ・SNACK ZOU-NO-HANA: 文化芸術に触れる機会・市民の活発な交流の場を創出	●「ニュー(ノーマル+クリエイティブ)ライフ12か条」を設定し、アートプログラム、公募プログラム、サミット、他展示、イベントで構成。「Creative walkway」の一環で実施。象の鼻パークに加え、日本大通り駅三塔広場の活用にもつなげた。●誕生から10年の節目を迎えた「ひかりの実」を全国展開させた。 ●感染症対策を徹底しリアルでの実施ができた。最近では土日開催を試している。●テーママルシェは情勢により延期中止を余儀なくされている。●デザイン性の高い新しい什器を製作。●他の事業と連動させ、象の鼻パークで展開した。 ●オンラインを取り入れた展開として、恒例の「うたえ！ゾウノハナ合唱部」は映像配信を実施した。●時間外活用のプログラムはダンス公演、音楽ライブおよび映画会を主に実施。●象の鼻パークを劇場に見立てた演劇公演も実施。	
	3	市民にとってより身近で開かれた事業 □市民参加プログラム、教育プログラムの充実 □市内教育機関、文化施設等との連携 □ガイドボランティアの自立性強化	・Atelier ZOU-NO-HANA: KO-ZOU CLUBの登録者数と活躍の場を拡大 KO-ZOU CLUBメンバーが象の鼻テラスの活動に係る企画を立上 ・ETB(エレファント・トラベル・ビューロー): 象の鼻ならではのアートツーリズムを追求 ・ダンス縁日: クオリティ向上に向けた検討(参加団体の審査など)世界交流・食とのコラボレーション	●横浜芸術文化プラットフォームでのコーディネートは4校を担当。身体表現・音楽(作曲・演奏体験)等のプログラムを提案した。●オリジナルのマスクは継続して販売。オリジナルスタンプセットの無料貸出サービスも行っている。 ●ガイドスタッフ有志が新規企画のスタンブラリー性の企画を考案。●近隣の船会社との連携企画「おさんぽクルーズ」も一時再開。 ●46組の団体のステージを実現。●コロナ禍の状況に適したレイアウトの工夫など運営スタイルを確立させた。●ステージはゲストダンサー枠も設け、プロの技術を間近で見る機会を創出している。	
	文化芸術事業				
	4	□横浜市主催事業、横浜市の政策に沿った事業、創造界隈拠点と連携した事業等への開催場所提供	・スローレーベル/ヨコハマ・パラトリエンナーレ ・その他協力事業	●ソーシャルサーカスを活用した横浜発のダイバーシティインクルージョンを学ぶ教材、研修プログラム開発。●東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開閉会式でアクセシビリティを中心に参画。●「認定特定非営利活動法人」(認定NPO法人)として認定を受けた。	
	文化芸術事業				
	5	□カフェからの積極的な文化発信	・オリジナルイベントの開催 ・文化芸術事業との連動	●BENTO PROJECTでは、毎月アンケートを取り続け、コロナ禍における来場者の意識の変化や要望をヒアリング。●ニーズに応じて平日限定メニューや季節限定メニューを販売。●酒類提供の自粛期間中(7月21日～9月30日)はノンアルコールメニューを展開し、来場者の満足度を高めた。●イベントに伴って「象の鼻カフェ山下公園店」として2か月間キッチンカー営業を行なった。	
	2 広報活動により施設及び事業の効果的な周知を行う	1	□象の鼻テラス及び各事業の効果的な広報活動・情報発信 □創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信 □出版物、映像資料等の作成、発行 □海外を意識した情報発信(バイリンガル対応)	<施設広報計画> ・公式WEBサイトへのコラムページ新規開設 ・SNSと公式WEBサイトにおける情報発信 ・メールニュースを国内外に発信 ・日英バイリンガル化の徹底 <事業広報計画> ・事業趣旨に合わせた手法を活用、バイリンガル化 ・オウンドメディアを活用した発信 ・アーカイブの作成	●施設広報では、オウンドメディアである公式ウェブサイト・SNSをこまめに更新し、地道な情報発信を続けている。●オンラインイベントを通じて情報発信に繋がった。(Zoomウェビナー活用イベント:1件、Facebookライブ:5件、Youtubeライブ開催:1件)※参加者を限定するものは含まず ●各事業の広報活動について、FUTURESCAPEでは外部スタッフを配置し戦略的な活動に取り組めた。記録集の発行もおこなった。●発信性を高めるため、一部事業で特設WEBサイトの立ち上げ、準備を行なった。(weTREES、ダンス縁日、パレエプロジェクト*公開に至らず)
	自己評価(成果・課題)	委員会評価			

[PJ]鶴見小野での事業は、地域の関係人口、協賛・協力団体の獲得など想定以上の成果を上げられた。継続には、資金調達や地域の担い手の発掘などが課題である。また、海外アーティストと市民の交流、ディレクターズ・ミーティングのオンライン開催により、市民にひらいた活動ができた。
[BALLET]幅広い世代を対象とした内容に発展させたことで、ダンス経験者だけでなく様々な参加の動機をもつ人が集まり、広がりをみせている。
[FSP]市民の表現のプラットフォームである公募プログラムを再開することができた。山下公園での展開が実現できず残念だった。文化事業の一環として象の鼻パークで飲食・営業行為の実施が認められ、その後別の事業での展開にもつながっている。
[MARCHE]コロナ対策をしっかり講じて、コミュニケーション型の象の鼻テラスらしさを失わず推進できている。什器製作では横浜のデザイナーを起用し、好評を得ている。屋外展開はFSP事業の一環とし実現。
[SNACK]徹底した対策で感染者をだすことなくイベント開催を続けることができた。イベントに関連した展示を実施することで日常的な文化体験の機会を創出した。
[ATELIER]小学校派遣を通してクリエイティブ・チルドレン育成に寄与できている。他事業の一環で実施したひ(ひかりの実)、相互にプラスの取り組みとなった。
[ETB]市民ボランティアの活動を中心としており、そこで生まれた企画は来場者の人気を得ている。過去の作品でオンライン型のものがあるにも関わらず活かせていないので今後の課題として取り組みたい。
[ダンス縁日]昨年度は断念したリアル開催を、感染対策を万全にした運営方法を確立させ、無事にクラスタが発生することなくやり遂げたことは大きな成果である。ここで確立した運営スタイルは他のイベントでも参照している。
[SLOW]目標に掲げていた東京2020オリパの開閉式に携われたことが大きな成果である。このレガシーを引き継いでいくことが課題だ。
[CAFE]アンケート収集を定期化したことで利用者の要望をメニューに反映できたり、コミュニケーションの成果を生み出した。

・結果と成果が混在している印象がある。事業を実施したことによる具体的な変化、効果やインパクト測定を基盤とした評価方法も検討していく必要がある。
・利用者アンケートについて、カフェ利用者だけでなく、文化イベントに関する参加者の満足度を測るアンケートを取るとよい。イベントに参画して長い時間使っている人たちがウェルビーイングをどう高めたかなど、継続的にお話を聞く機会を設けるなど、言葉を客観的に見えるようにするとよい。アートとウェルビーイングが結びついていく時代の変化の中で、そういったデータがあるとよい。
・プログラムごとに、実施することで、どういう変化があったか、言葉と数字でストーリーを表せると効果がわかりやすくなる。
・象の鼻テラスは安定した運営を基盤にして、事業を広げてきた一方で、すべてを自らで担うことには限界がある。スローレーベルは一つの成功例。スローレーベルのように次の主体的な担い手につながる活動に重点を置くことも重要である。

【総評】
 ・コロナ禍においてもこれだけの活動を行い、実績を積み上げたことは高く評価できる。
 ・安定的で持続できる運営体制のもと、さまざまなチャレンジを重ね、これまで成果をあげてきた。成果を次の担い手へ繋いでいくことも重点を置いてほしい。育てたところが主体的に活動していけるような事例を増やし、持続可能な発展をしていくことが望まれる。
 ・次の時代のニューノーマルに向かって、方針や評価の見直しの時期に来ている。事業内容は充実しているのに、市民のクオリティ・オブ・ライフをどのように高めたのかといった社会的インパクトの観点からの成果を説得力のあるものとして見える化することも求められている。

【市の取り組むべき事項】
 ・客観的な成果の見せ方、分析方法は運営団体とすみ分けしつつ、社会的インパクトを明らかにしてほしい。
 ・鶴見小野のプロジェクトなど、1年では成果の出ない取組に対して、継続中であるという書きぶりも認めるべきである。
 ・都心臨海部で見れば、市庁舎の移転など賑わいづくりの成果はすでに出ている。これからは、市民のクオリティ・オブ・ライフやウェルビーイングをどのように上げていけるかがアートの課題になる。アートは地域活性化や、医療・福祉、など社会課題に広く関わっていけるので、そういった観点から、長期的な評価、方針を見据えて、市は何に対して重点を置くのか整理してもらいたい。

【総評】(令和2年度)
 ・コロナ禍においても、基本方針の達成に向けて様々な工夫の中で事業を進められてきたことは高く評価できる。
 ・事業の選択と集中が進んだことで洗練されてきており、特に、市民参加型を中心とした事業は、象の鼻テラスらしい個性が明確になってきている。
 ・体制や事業内容は充実してきているが、事業運営の方法等の工夫の余地はまだあるため、現状の手法にこだわらずにチャレンジしてほしい。

【総評】(令和元年度)
 ・国有地、港湾施設として制約が多い施設運営にもかかわらず、市民を対象とした質の高い多彩なプログラムを実施し定着させている。10年間に築き上げた実績は大きい。
 ・これからの5年、10年を見据えたうえでフューチャースケープ・プロジェクトのような意欲的なプロジェクトを実施し、新たな可能性と方向性を見つけたことは評価できる。
 ・アート・プログラムのターゲットがなかなか絞り込めないという難しさがある中で、市民に開かれたプログラムを着実に実施してきている。

【総評】(平成30年度)
 ・港にあることの特質や市民への開放性など、象の鼻テラスらしさのある企画が行われていた。
 ・10年という時間をかけて象の鼻テラスというブランドが確立されている。
 ・ここにしかない、かつ、市民に開かれた空間が、市民からの提案という形で実現する可能性があることが、他の拠点と違う特徴であり成果である。
 ・分科会で出た課題についてはきちんと改善・向上するよう努力されており、少ない人数でしっかり運営していることは評価できる。

【総評】(平成29年度)
 ・無料休憩所の運営と文化観光交流拠点の運営の両立という難しいミッションのもと、総合的に質、量ともにレベルの高いプログラムを実施している。
 ・事業者の努力により、運営における人員体制は改善されてきている。
 ・フューチャースケーププロジェクトは、これからの象の鼻テラスにとって重要なプロジェクトなので、市とワコールとの両輪で進めてほしい。市民との話し合いもキックオフイベントの1回だけでなく、続けていけるとよい。また、その成果も公開するなどして、なるべく多くの市民と共有できると良い。